

主要講演抄録集

(敬称略)

特別講演

教育講演

レクチャー

特別講演

地域包括ケアを支える地域リハビリテーション ～広島県における多くの仲間・関係団体とともに～

司会: 下山 恭史(第28回広島県理学療法士学会 副会長)

公立みつぎ総合病院・広島県リハビリテーション支援センター
三宅 貴志

【はじめに】

これからの地域は人口減少や価値観の多様化など、私たちがはじめて経験する人生100年時代に入ります。そのため、私たちリハビリテーション専門職は、地域の人たちと未来の地域づくりに向けて取り組むことが期待されています。



【地域包括ケアと地域リハビリテーション】

まずは皆さんと一緒に、今一度、確認したいと思います。

○地域包括ケアとは？

地域で地域を「丸ごと」支える（ケアする）こと

○地域包括ケアシステムとは？

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（厚生労働省）

○地域リハビリテーションとは？

障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。

（日本リハビリテーション病院・施設協会）

これらの言葉から、地域包括ケアシステムと地域リハビリテーションの目指すところは一緒であるとともに、地域リハビリテーションは地域包括ケアに向けた地域づくりを進める具体的な取り組みといえます。

【未来の地域づくりに大切なことは？】

私たちリハビリテーション専門職のスキルは、市町における地域づくりの一助につながると期待されています。広島県は23市町で構成され、日常生活圏域（一つの地域包括支援センターの担当エリア）においては125か所となります。すなわち広島県では125通りの地域の姿があるといえます。そこで今回は、私たちが市町の地域づくりに関わるうえで大切なこと何か？について、広島県地域包括ケア推進センターのツールを活用して考えていきたいと思っています。

【多くの仲間・関係団体と取り組む地域リハビリテーション】

地域リハビリテーションに資する取り組みを継続していくためには、多くの人との協働が重要となります。そのため、広島県では、多くの仲間・関係団体とともに「広島県地域リハビリテーション推進事業」を展開しています。今回は、本事業における取り組みをはじめとして関係団体との協働について触れることにより、みなさんへの今後の後押しにつながればと思います。

【おわりに】

本学会では、地域支援に資する取り組みを担う方や病院・介護保険領域で活躍する方、地域に根差し独自の運営を展開されている方など、幅広い方々との場になると思います。当日はそれぞれの立場で未来の地域づくりに向けた役割や目指すべきあり方等を考える機会になればと思います。

略歴

公立みつぎ総合病院 リハビリ部理学療法士技師長

広島県リハビリテーション支援センター 副センター長

【職歴】1997年 理学療法士免許取得 同年4月 公立みつぎ総合病院 入職

【現在従事している業務】介護老人保健施設「みつぎの苑」・広島県リハビリテーション支援センター・地域リハビリテーション広域支援センター（尾三圏域）・一般社団法人 日本リハビリテーション病院施設協会 地域リハ推進委員会 委員・全国地域リハビリテーション研究会 理事

司会：田原 岳治（東城病院）

広島都市学園大学
猪村 剛史



“多くのリハビリテーション戦略や機能改善に関する報告のほとんどは臨床経験に基づくものであり、比較試験を用いて科学的に評価されたものでない”。これは、1989年にStroke誌に掲載された脳卒中に関するWHOタスクフォースの報告書内の一文として広く知られ、神経理学療法における教訓とされてきた。その後、国内外の多くの臨床家・研究者の献身的な努力により現在の神経理学療法学が築かれてきた。加えて、工学・情報学・生物学等、あらゆる分野の飛躍的な発展により、近年の神経理学療法学の進歩は目覚ましいものがあり、まさに現代の私たちは、『巨人の肩』にのって仕事をしているといっても過言ではない。本講演では、神経理学療法の現状と課題に加えて、テクノロジーの進歩に伴う神経理学療法のこれからについて、我々の取り組みも踏まえて概説する。

神経理学療法の現状と課題としては、脳卒中・脊髄損傷等の神経理学療法領域の疾患に対する各種治療ガイドラインの内容や背景となる先人の取り組みを紹介しながら、現在の神経理学療法のスタンダードと課題を整理する。2018年12月の「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」の制定を背景として、脳卒中や心臓病対策のための組織化が急速に進む等、理学療法士を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。理学療法士は、専門職の立場から興味のある分野を学術的に開拓すると同時に、社会の変化に伴って社会から期待される役割を理解し、その課題解決に向けて職能的に取り組むことも重要である。本講演の後半では、長寿社会において神経理学療法に携わる我々がこれから果たすべき役割について私見を交えて話をする予定である。

略歴

広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授

【学歴】

2009年3月 医療福祉専門学校緑生館 理学療法学科 卒業

2011年3月 広島大学大学院 保健学研究科博士課程前期修了 修士（保健学）

2014年3月 広島大学大学院 保健学研究科博士課程後期修了 博士（保健学）

【職歴】

2011年4月～2014年3月 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院 理学療法士

2014年4月～2015年3月 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院 副主任理学療法士

2015年4月～2020年3月 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（現 大学院医系科学研究科）助教

2020年4月～2024年3月 広島都市学園大学 健康科学部リハビリテーション学科 講師

2021年5月～2024年3月 広島大学 客員講師

2024年4月～現在 広島都市学園大学 健康科学部リハビリテーション学科 准教授

2024年5月～現在 広島大学 客員准教授

【学会役職】

日本理学療法士協会 代議員、日本神経理学療法学会 評議員、日本神経理学療法学会 広島地方会リーダー、日本基礎理学療法学会 評議員、広島県理学療法士会 常任理事

司会：福田 尚文（松尾整形外科リハビリクリニック）

かとう整形外科スポーツ運動器クリニック
星 賢治

整形外科クリニックへの受診の目的は、急性・慢性に関わらず「痛み」の改善にあると言えます。

過去の調査では、整形外科に受診した慢性疼痛患者の70.7%が「満足のいく程度に疼痛が緩和されていない」と答え、慢性疼痛を抱える人の50.1%が「どこにも通院していない」と回答しました。国民生活基礎調査の概況では、男女ともに依然として腰痛、肩こりが上位を占めており、地域医療を支える整形外科クリニックとしては忸怩たる思いがあります。

MRIの普及により単純X線では描出できない筋や靭帯などの損傷の診断が可能となりましたが、時間・費用の観点から、すべての施設、すべての疾患にMRIを撮影することは不可能です。また、MRIから得られた画像所見が必ずしも患者の訴える臨床所見と一致しないという報告も多くあります。

近年、超音波エコーの普及に伴い、簡便に、かつ迅速に炎症の把握や軟部組織の描出が可能になったことで、これまで可視化出来なかった脂肪体や末梢神経、軟部組織の滑走性の低下なども疼痛の要因として認識されるようになりました。それにより、これまでは原因組織が掴めずに慢性疼痛や痛覚変調性疼痛として捉えられていた症状も、侵害受容性疼痛や神経障害性疼痛としての治療が可能になってきました。医師によるエコー下インターベンションや、理学療法士によるエコーを通じた徒手介入場所の同定は整形外科における疼痛治療を大きく前進させたと感じています。

医師が構造的破綻を診断するのに対し、理学療法士は機能的破綻から疾患を捉えていきます。バイオメカニクス研究でも機能的破綻との関連を明らかにするのが難しいものにアライメント異常があります。例えば、古くから仙腸関節障害と腰痛との関連が言われているにも関わらず、実際の動態を明らかにすることは困難です。そのため、臨床ではアライメントを補正するように徒手操作を加えた際に症状が変化するか否かで、逆説的にアライメントの関与を推察しています。特に腰殿部痛はアライメント異常の影響を受けやすいため、徒手操作により臨床症状が変化するかどうかを評価することが重要です。もし即時的に症状が改善すれば脊柱管外の関与を、変化しなければ脊柱管内病変の可能性も考えながら介入の方向性を決定しています。早い段階で治療の方向性やゴール設定を考えるためには、アライメントを補正するような徒手操作は必須の技術であると言えます。

本レクチャーでは、当院で行っている超音波を介した理学療法の展開と、主に腰臀部への徒手操作を用いたゴール設定の方法を、私見を踏まえながら若手の方々に対してお伝えできればと考えています。



略歴

【学歴】

2001年3月 群馬大学教育学部保健体育学科 卒業
 2005年3月 前橋医療福祉専門学校 卒業
 2017年2月 広島国際大学大学院医療福祉科学研究科 医療工学専攻博士後期課程 修了
 2024年～現在 学校法人朝日医療学園 朝日医療専門学校広島校 鍼灸学科 在学中

【職歴】

2005年～2013年 医療法人社団飛翔会 寛田クリニック
 2013年～2016年 医療法人社団あおい会 大田整形外科おた内科 非常勤
 2013年～2020年 医療法人社団ヤマナ会 東広島整形外科クリニック 非常勤
 2017年～2019年 広島YMCA 専門学校社会体育科 非常勤講師
 2017年～2023年 朝日医療専門学校広島校 非常勤講師
 2020年～現在 医療法人陽会 かとう整形外科スポーツ運動器クリニック
 2023年～現在 リアライン・イノベーション研究会 副理事長

【資格】

・教育学士・理学療法士・博士（医療工学）・認定理学療法士（スポーツ理学療法）・NSCA-CPT / CSCS・NASM-CES / PES